

プレスリリース

平成23年6月2日

つくば市

ロボット特区実証実験協議会

つくばモビリティロボット特区 公道実験スタート！
— 本日6月2日（木）、いよいよ実験キックオフ —

【概要】

つくば市及びロボット特区実証実験協議会（会長：つくば市長 市原 健一）では、モビリティロボット実験特区の認定を受けたことに伴い、本日6月2日（木）から公道実験を開始いたします。

午後1時30分から、つくば市長も出席してキックオフセレモニーを行い、実証実験に参加するロボットが一同に会して、つくばセンター駅周辺の歩道で走行実験を行います。

6月中は、週2日程度の頻度でつくば駅周辺又は研究学園駅周辺（特区エリア内）で公道実験を行い、ロボットの評価検証を行います。その後、徐々に実験日を拡大していく予定です。

また実験エリア及び実験を行うロボット（参加企業）等についても徐々に拡大していく予定です。

【つくばで実験を開始するロボット】

1. (独)産業技術総合研究所：インテリジェント車いす、マイクロモビリティ
2. (株)日立製作所：日立搭乗型移動支援ロボット
3. セグウェイジャパン(株)：セグウェイ

*その後、その他の企業も実験に参加予定。

【公道実験の内容】

社会で役立つロボットの実用化および社会導入（法改正等のロボットを受



け入れるための社会システムの変革を含む) を目指して、a. ロボットの社会的な有効性、b. 歩行者等との親和性 (社会受容性) c. 実環境における搭乗者の安全性等を主な評価検証項目として、公道実験を行います。

a. 社会的な有効性に関しては、低炭素社会づくり、安全安心なまちづくり、高齢者も元気に暮らせるコンパクトシティづくり等に向けてロボットがどの程度役立つかを評価検証します。当面、セグウェイについては、特に安全・安心な街づくりに役立つことが期待されることからとして、防犯サポーター等による防犯パトロール実験を行い、その有効性を評価検証します。

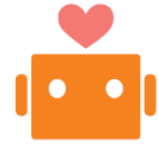
産業技術総合研究所、日立のロボットについては、初めての本格的な公道実験であることから、当面は、産総研や日立の関係者が搭乗者となって公道実験を行い、実環境でのロボットの操作性等を検証します。その後、第三者や想定ユーザー等が搭乗して公道実験を行い、コンパクトシティ、低炭素社会等に向けた有効性・貢献度等を評価検証します。

その他、モビリティロボットが社会に受け入れられるため、b. 歩行者等の他の通行者との親和性 (ロボットが新たな移動手段として他の通行者と共存できるか) 及び、c. 実環境における搭乗者の安全性 (様々な環境下において不特定多数の通行者がいる中で安定的に移動できるか等) についても評価検証を行います。

【本特区実験の意義】

モビリティロボット実験特区において、公道実験を行うことの意義は、企業単独ではできない (自社敷地等ではできない) 実験を行えることです。ロボットの实用化および産業化のためには、実社会の中で第三者やユーザーを交えて実験を行い、ユーザーの声をロボット自体やサービスの開発に活かし、また実験を行うというスパイラルが不可欠です。本特区では、ユーザーとのキャッチボールにより、ロボットの社会的な有効性を評価・検証し、社会に役立つロボットおよびロボットを活用した新たなサービスの開発を目指していきます。

生活支援分野などのこれからのサービスロボット産業の拡大のためには、ロボット自体の開発だけでなく、ロボットを活用したサービスを含めたビジネスモデルを開発していくことが大変重要です。そのような観点から、ロボット自体の開発だけを目指すのではなく、ロボットを1つのツールとしてパッケージ化した新たなサービス開発を目指し、大規模な社会実験への発展を視野に入れて



実証実験を行っていきます。

【本特区実験の目指すところ】

これからつくばで行う公道実験は、構造改革特区という規制の特例措置の基づき実施するものですが、実施場所・時間の要件・搭乗者等が限定されています。また公道実験を行うためには、所轄の警察署長の道路使用許可も必要です。なお、実験ですので、つくば市内のどこでも自由に一般の人々がモビリティロボットに搭乗し、公道を走行できるわけではありません。

初めての公道実験ですので、事故等のないよう安全対策はしっかりと行っていくところですが、サービスロボットの実用化および社会導入のためにはさらなる規制緩和が必要です。本特区では、各種の実験を行い、実績を積みあげていった後、さらなる規制の拡充及び将来的には法改正を目指して、国に提案していくことを目指していきます。

本件に関するお問い合わせ

つくば市産業振興課 大久保・早瀬・黒田

TEL 029-883-1276